

A

鈴木静村書

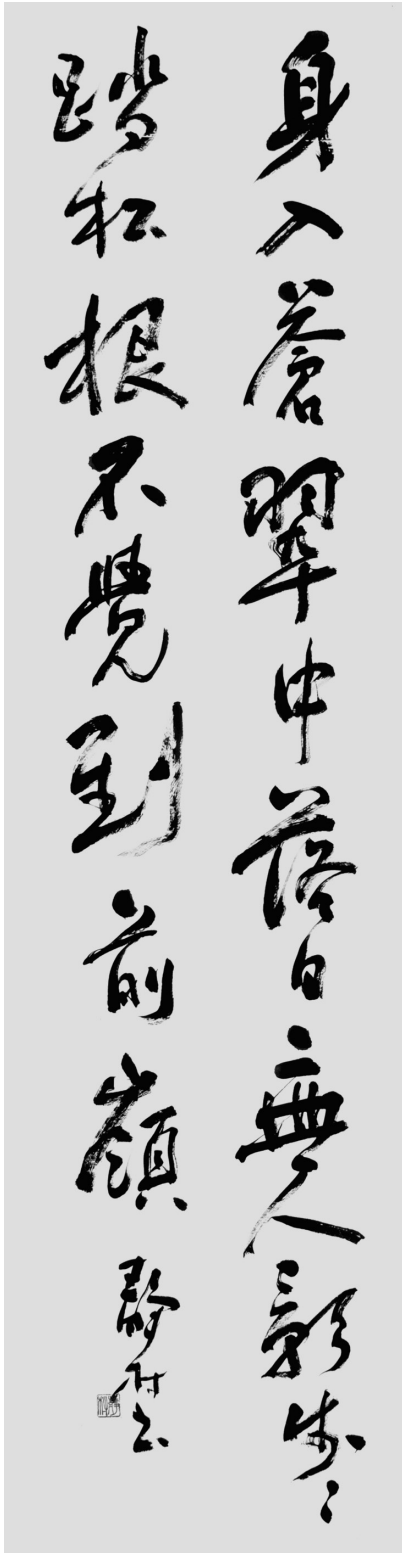
身入蒼翠中 落日無人影 步步踏松根 不覺到前嶺 (曹学佺)
 身は蒼翠の中に入り、落日人影無し。步步松根を踏み、覚えず前嶺に到る。



B

概観

濃墨にAは山馬筆の長鋒。剛毛のためツンツンとした用筆感、線は細身でいかにも固苦しい感。Bは兼毫の短鋒。ソフト感が違う。線が弱いと指摘されている人へは、まずは剛毛筆を勧めたい。筆は同じものばかりを使うのではなく柔剛・長短等各種を変えてみるのが大切。必ずハッと新しい発見に出会うことである。



主な文字について

A、二(一)三字連綿を多く脈絡にポイント。B、単体を主に、意連による流れを強調したい。蒼 A内部を「君」にした形。翠 Aは草、Bは行の形。無 墨継ぎ。歩 踊り字二点は軽快に。踏松根 平板気味、大いに打開してほしい。不 墨継ぎ。到前嶺 B単調、線に弛み。

訳：わたしは青みどり色の山に入り、夕日に照らされて独り歩く。松林の坂道を進んでいると、知らないうちに前方に見えていた峰まで来ていた。

予告 (二月二十二日締切)

熾炭一爐眞玉性

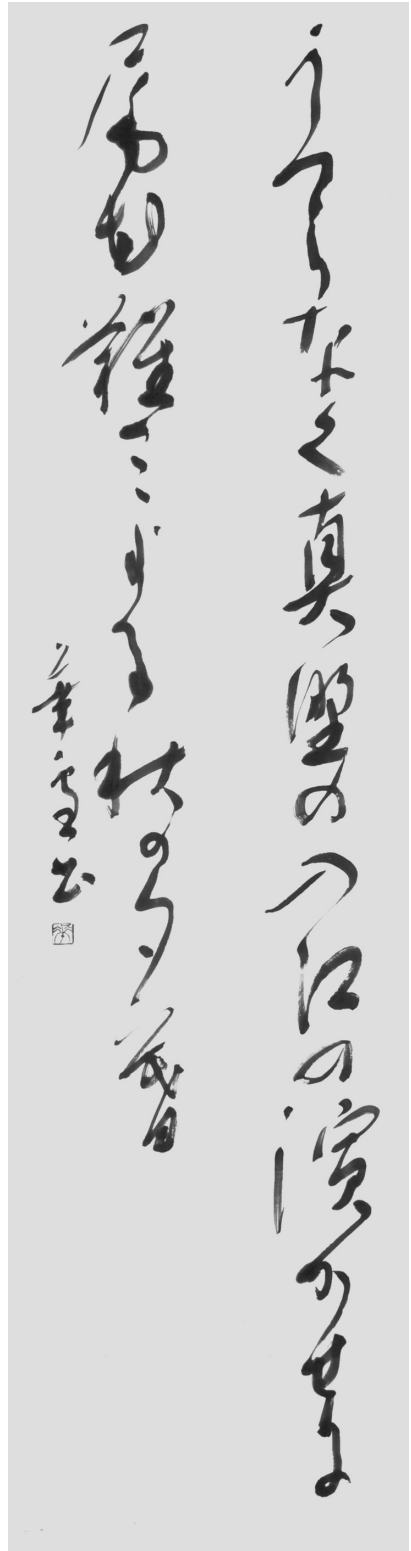
濃霜千澗老松心 (韓偓)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

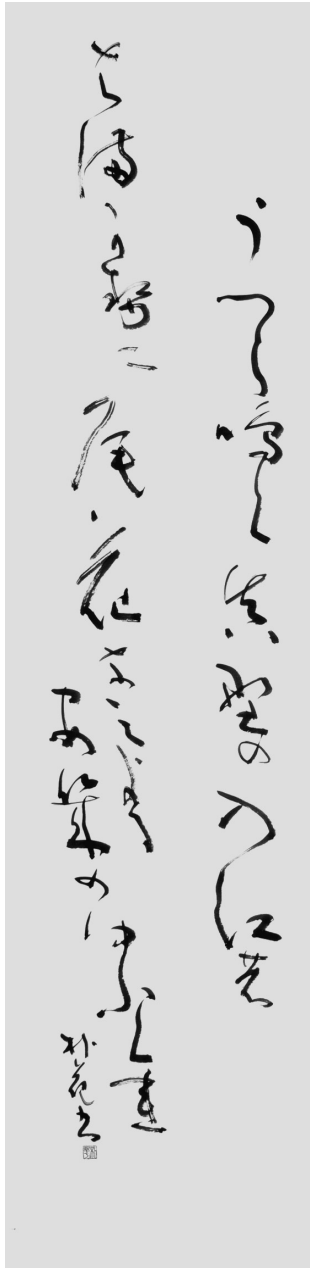
うづら鳴く真野の入江のはま風に尾花なみよる秋の夕暮 (金葉和歌集 源俊頼)
うつらな久真野の入江の濱かせ尔尾花難三よる秋の夕暮



B

向山朴花先生書

う川ら鳴く真野の入江農者満可勢二尾花奈三よる安幾のゆふ久連



学 び 方

半切三行書は、窮屈に見えぬよう、行間、文字の大小、潤濁、散らし方に注意します。漢字で表現したい「真野」「入江」「尾花」は、隣接し合わぬよう布置し、字幅を出します。一行目は、伸びやかに字間をとり、二行目から三行になる「奈三よる」は、小ぶりで渴筆のまま、次第に右に寄せます。主題の「安幾のゆふ久連」で、墨を入れ強調し、落款を含めて、二行目に添わせませす。漢字部分で叙景の力強さを、仮名部分の、動きのある連綿線で、古典の情趣を表現して、放ち書きと連綿との融合を心がけます。

因みに、この歌には詞書が添えられ、単なる叙景歌とは異なる趣意を感じます。
※真野の入江：滋賀県大津。真野川が琵琶湖に注ぐ河口付近の入江。当時は景勝地。

予告 (一月二十二日締切)

梅が枝になきてうつるふ鶯の羽根しろたへにあは雪ぞふる (新古今和歌集)

源俊頼

平安後期の官人、歌人。歌風は、自由清新、詩想豊かで、素朴な気持ちや生活を詠むことで知られ、活躍した。

白河院の命により、金葉和歌集を撰進。

金葉和歌集の田園趣味と、写实的傾向は、中世の到来を確実に知らせ、

初めて、連歌を雑下に分類して置いたことも評価される。

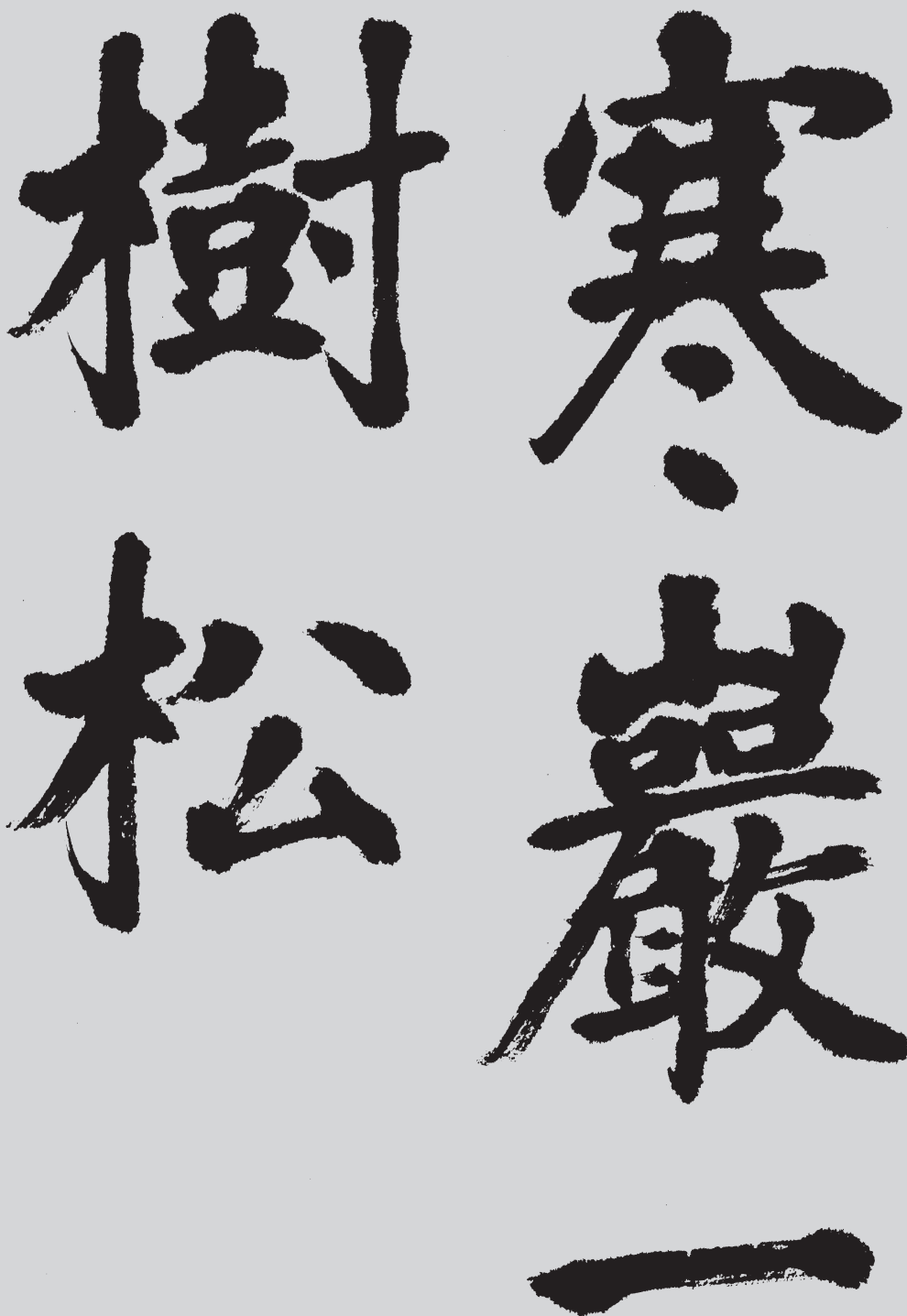
また、多くの古筆切の筆者に比定される。

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

平岡華雪先生書

寒巖一樹の松(張憲)

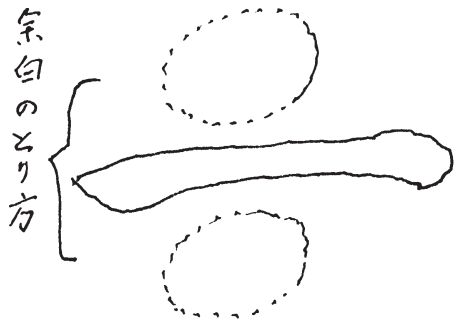
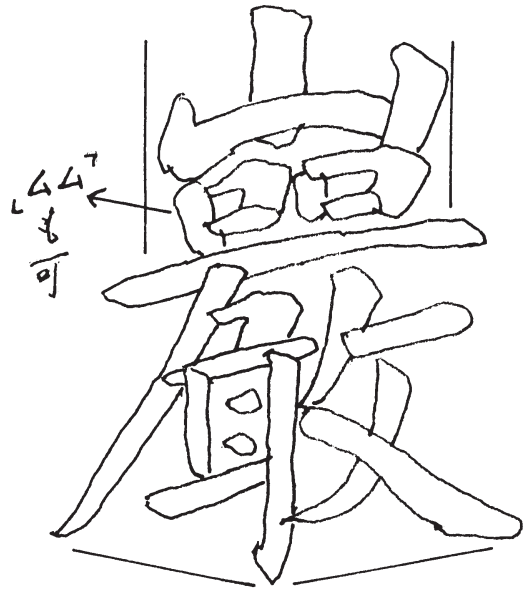
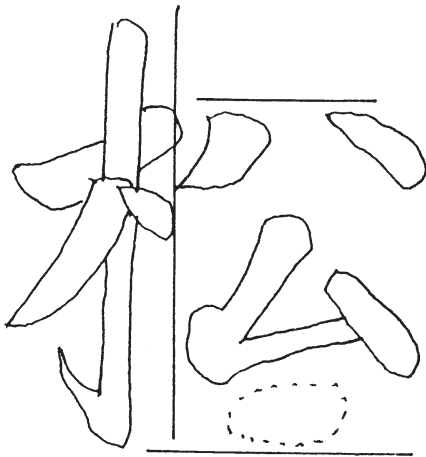
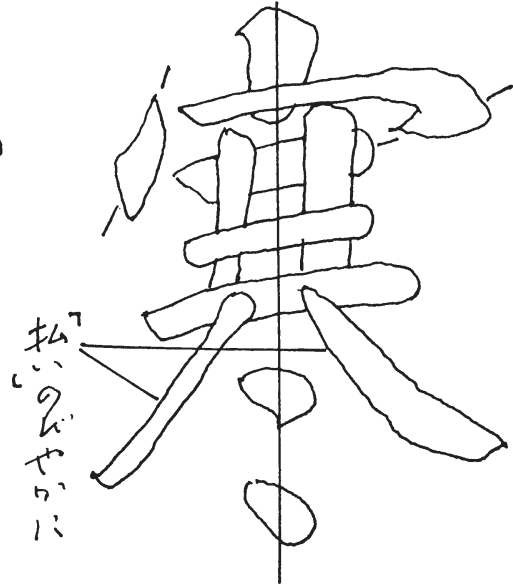
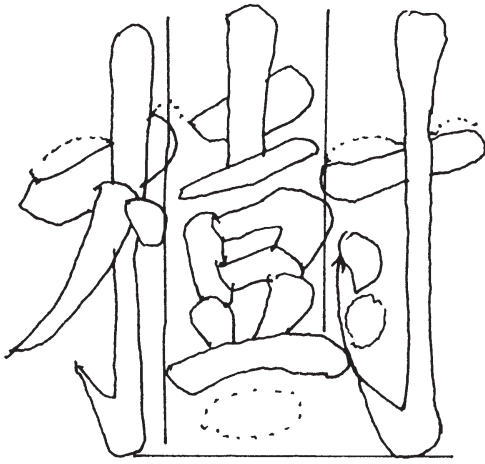


訳…冬の岩の上に一本の松は翠色深く秀でている。

▼注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

- ① 漢字部
- ② 支部名または都道府県名
- ③ 氏名または雅号
- ④ 新

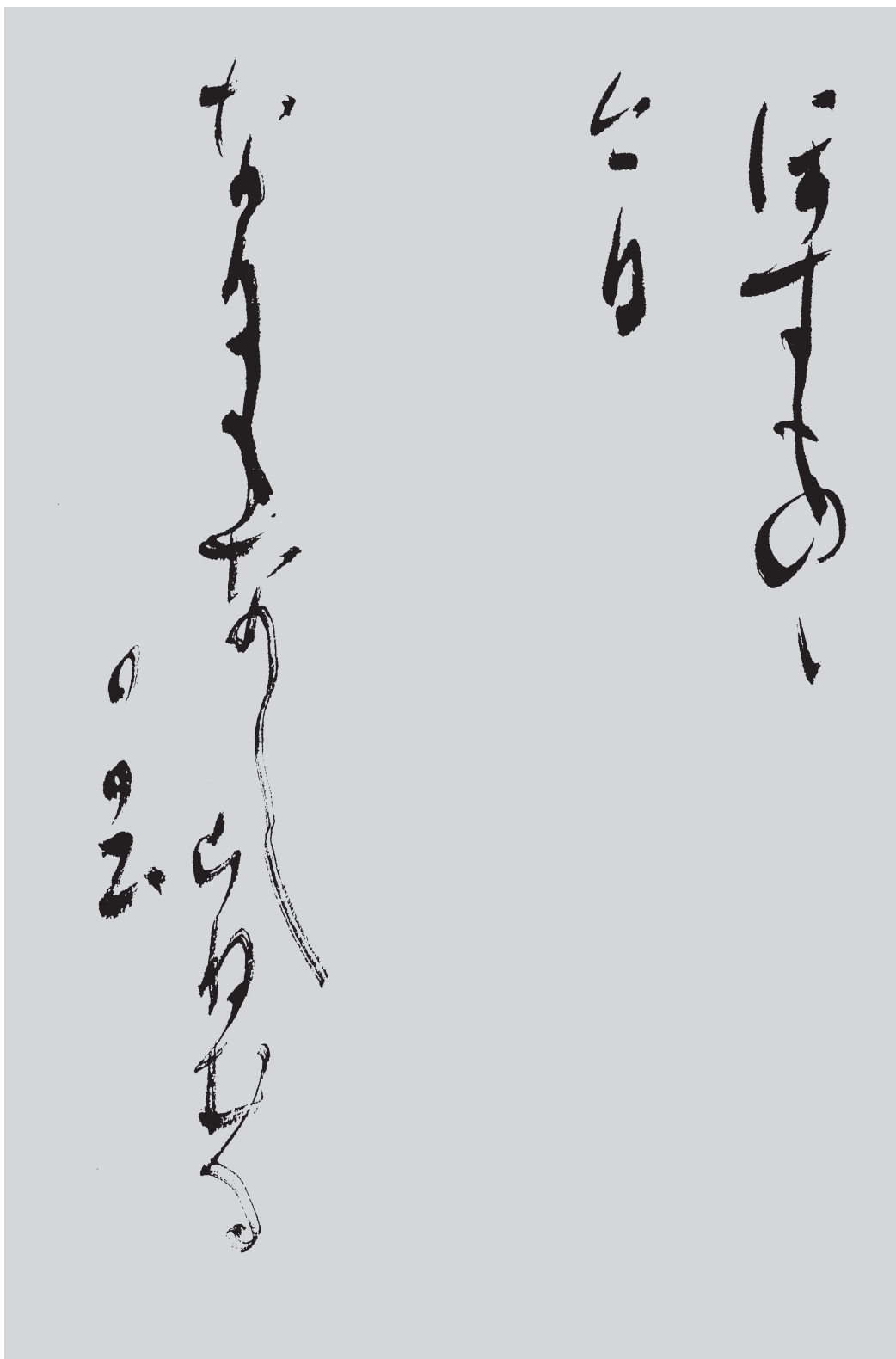
会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



余白のとり方はい—
 最少画数「一」の配字はおおず
 か、特に多画の「飯」との配
 合は、「寒」を含めての右行の
 注目点。「一」の大きさはニ夫を
 各人の「カ」の見せどころ。

平岡華雪先生書

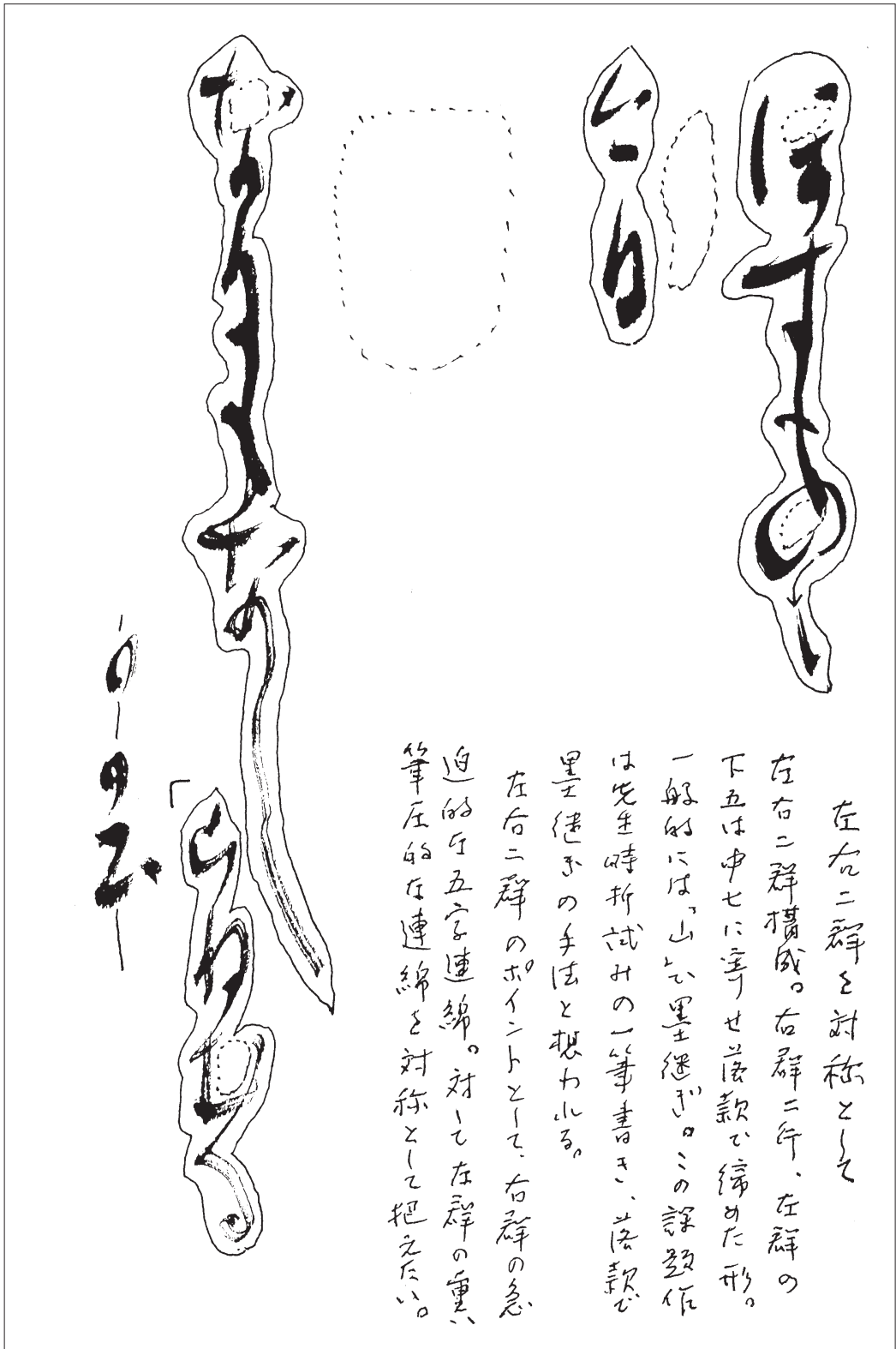
干すものゝ今日何もなし山眠る(潤)



▼注意……はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。

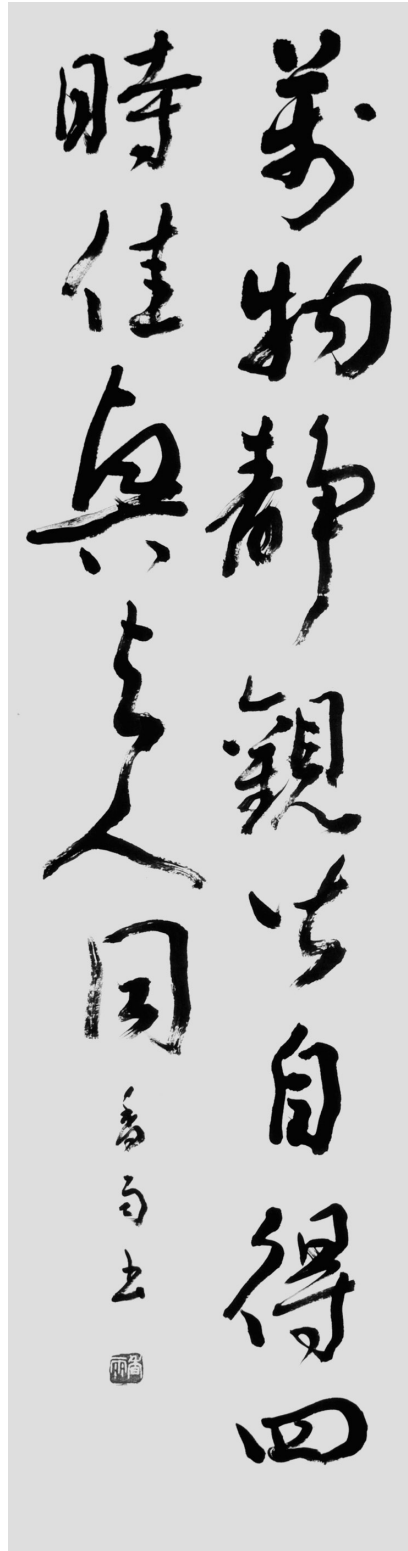
- ①かな部
- ②支部名または都道府県名
- ③氏名または雅号
- ④新

会員は無料、会員外出品料は四〇〇円。



酒井香雨先生書

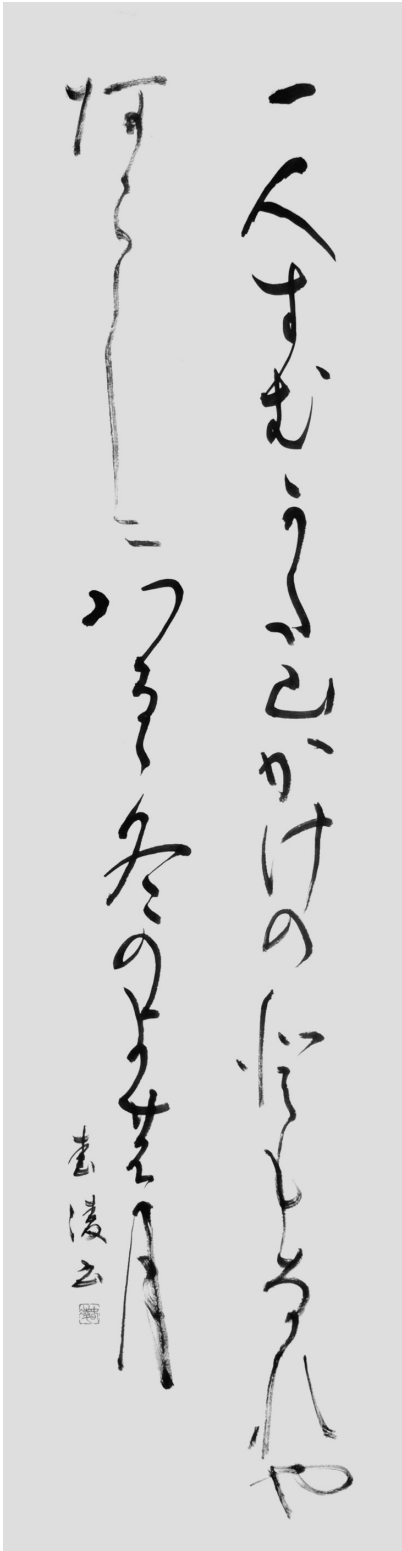
萬物靜觀皆自得 四時佳興與人同（程子）
 萬物靜觀皆自得、四時の佳興（おな）人と同じ。



訳：万物を静観すれば何事も自得されぬことはない、春夏秋冬のよき興味は人々と変りはない。

武井春凌先生書

ひとりすむ片山かけの友なれや嵐にはるる冬の夜の月（山家集 西行）
 一人すむ可多山かけの登も奈れや阿らし二八る冬よ農月

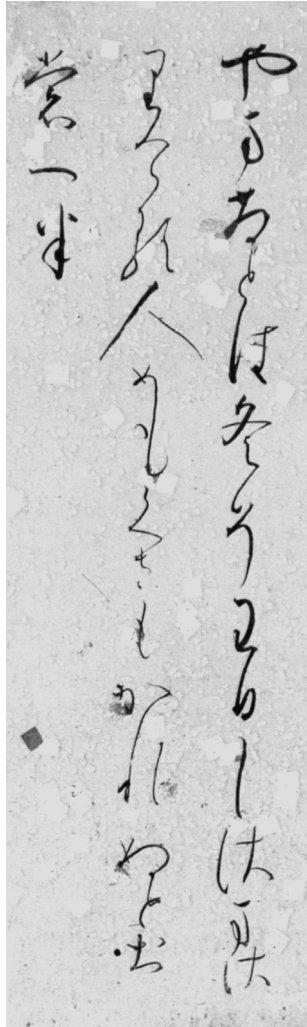
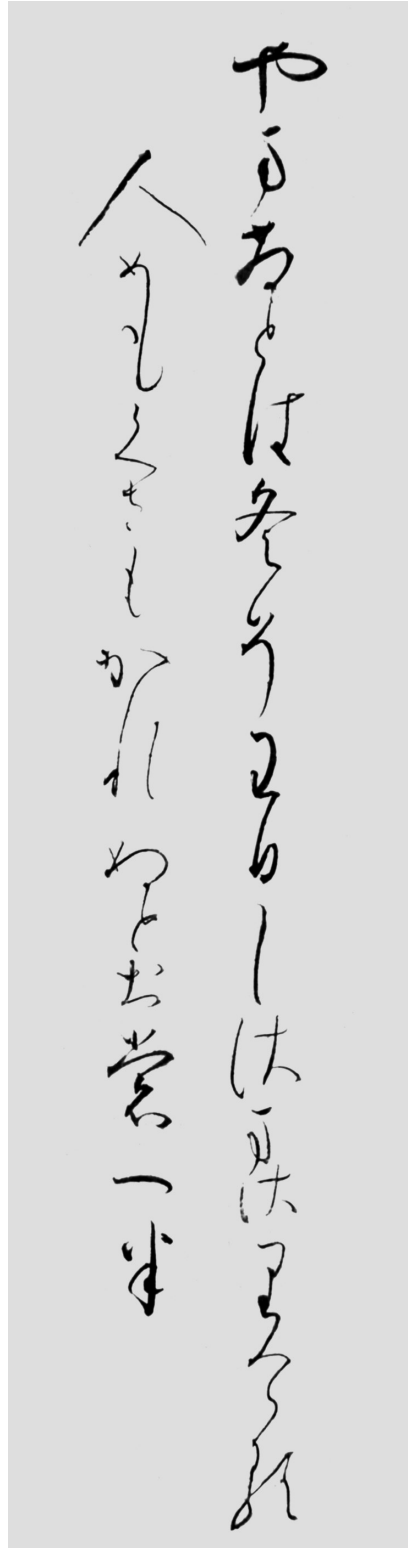


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

題 課 部 書 臨 幅 条

宮 絢子先生担当 元永本古今集

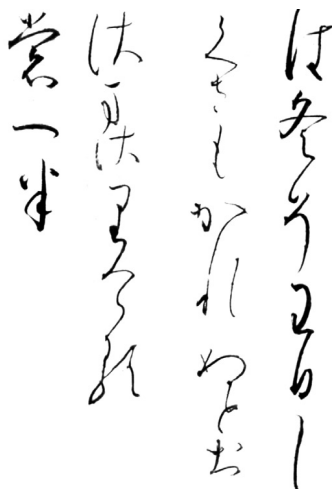
※条幅臨書部は出品料無料です。



やまざとは 冬ぞわびしさまさりける
人めもくさも かれぬとおもへば

や万散とは 冬曾王日し佐万佐里介類
人めも久さも かれぬとお裳へ半

③筆圧の強弱により行を響き合わせる。



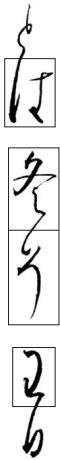
△学び方▽

①行をまっすぐに。



中心
文字を左右にゆすらないようにしています。

②たて長の字形を入れる。



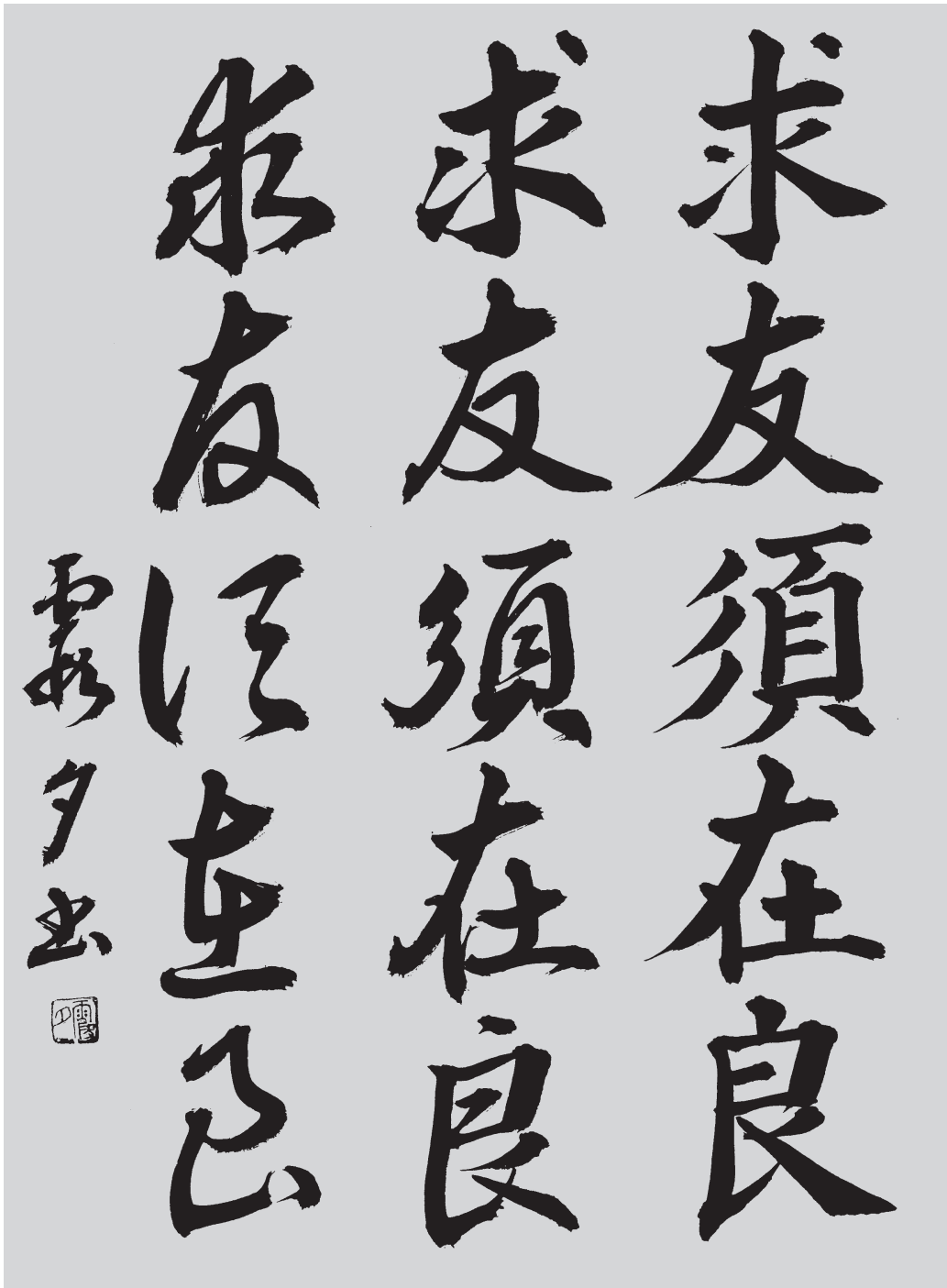
ゆったりとした呼吸を感じさせます。

側筆にし、筆の腹を使って太い線で書いた文字の
となりには、直筆で穂先を紙にくい込ませた鋭い線
の文字を配し、行が響き合うようにしています。

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

外川霞夕先生書

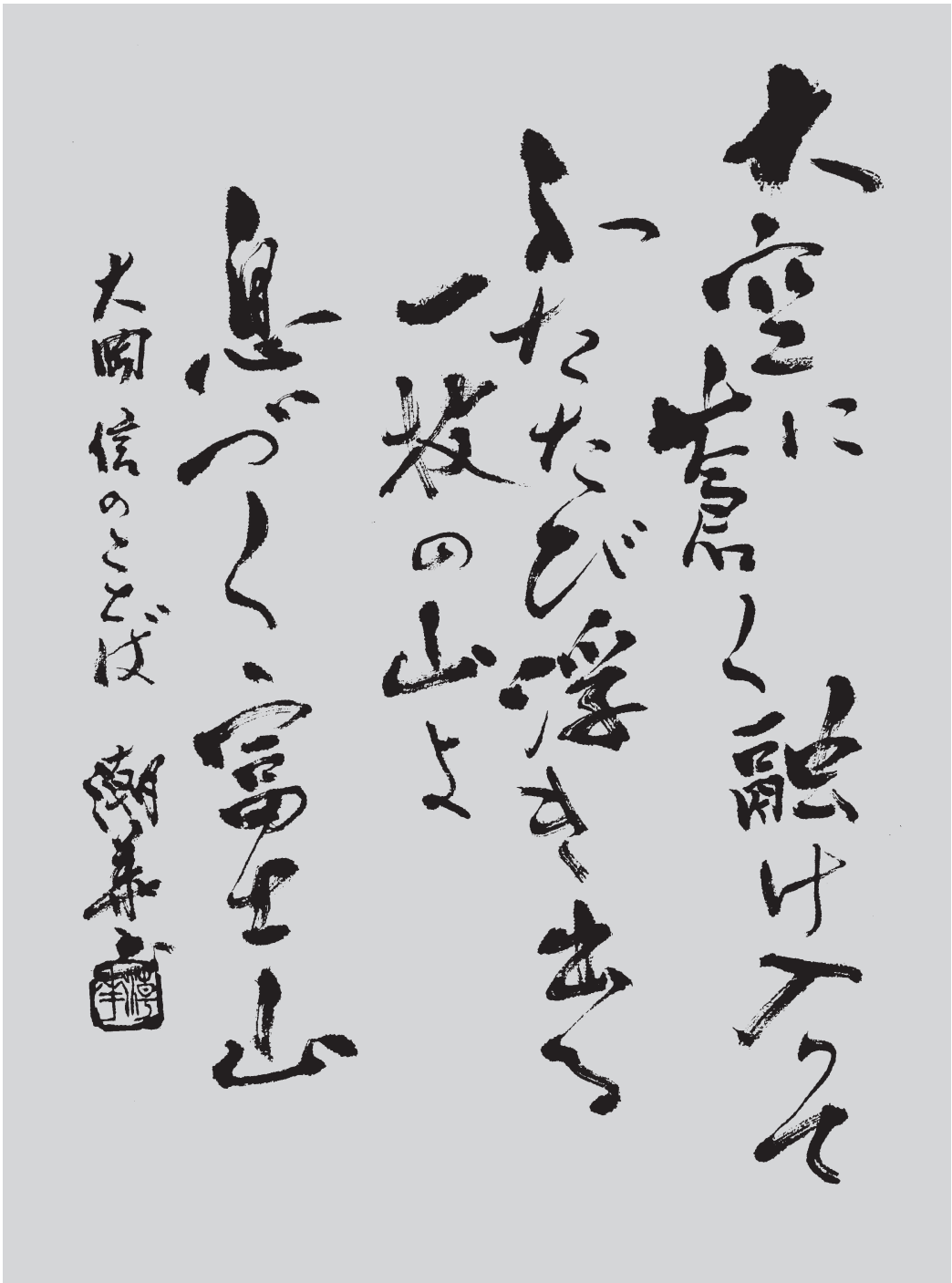
求友須在良（馮異）
友を求めば須らく良に在るべし。



訳：友人として交際するならば、何としても良き人とせねばならぬ。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

水貝潮華先生書



◆随意部参考として出品してください。

戸張丘邨先生書

返照寒川満 平田暮雪元工（皇甫曾）
返照寒川に満ち、平田暮雪空し。

返照寒川 平田暮雪
返照寒川に満ち、平田暮雪空し。

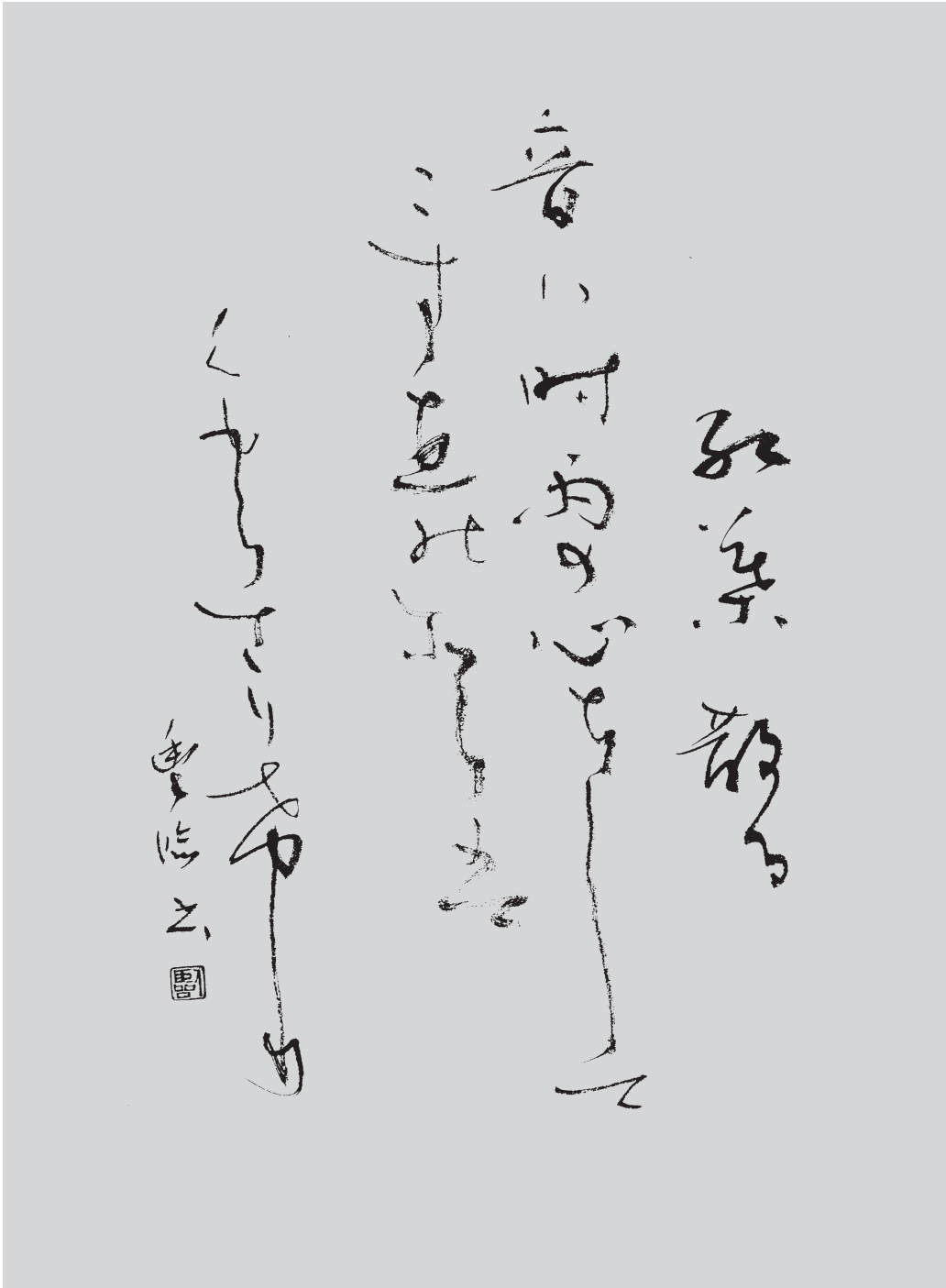
上邨
書

訳：夕日の影は冬の川一面にみち、広い一面の耕地には暮の雪が消えてしまった。

添削又は手本希望者は本会規定により、戸張丘邨先生（〒338-0832 さいたま市桜区西堀 9-20-10-401）に直接お申し込みください。

吉原豊臨先生書

もみぢちる音は時雨の心ちしてこずゑのそらはくもらざりけり（後拾遺和歌集 藤原家経）
紅葉散る音八時雨の心ちしてこず恵能所ら盤久もらさり希利



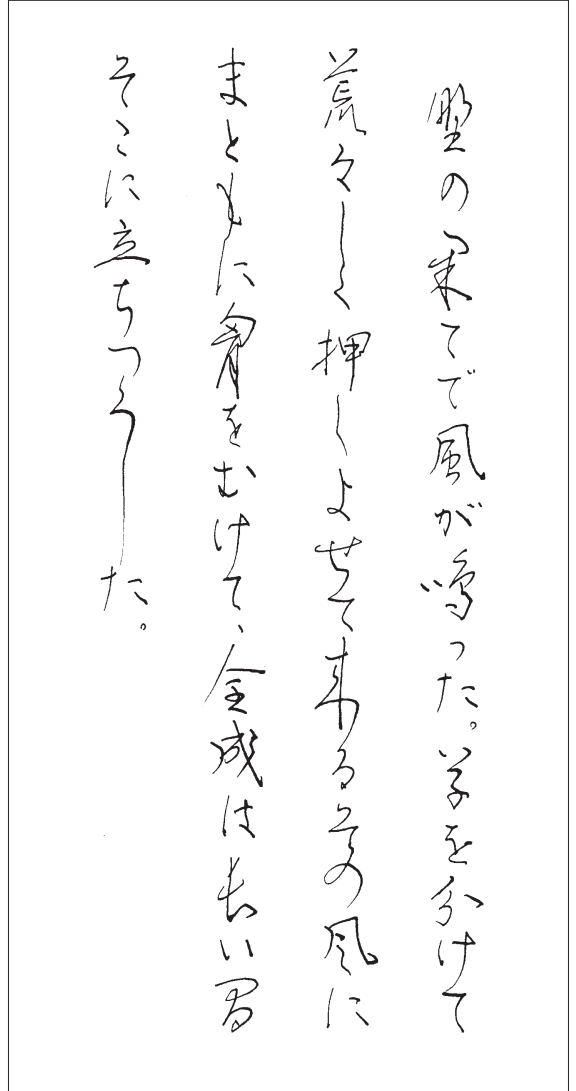
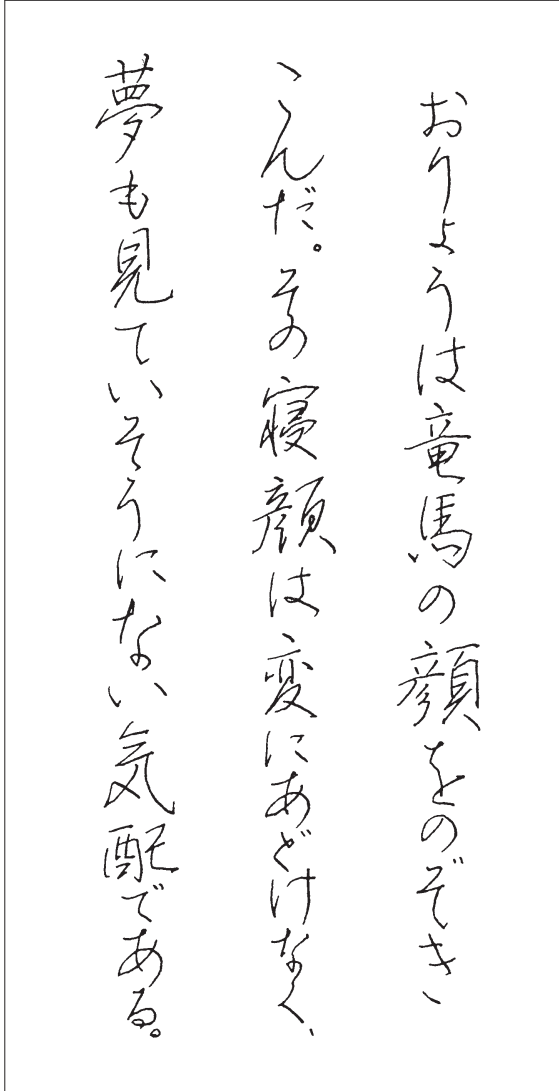
添削又は手本希望者は本会規定により、吉原豊臨先生（〒158-0084 世田谷区東玉川2-34-2）に直接お申し込みください。

松浦江波先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

野の果てで風が鳴った。草を分けて荒々しく押しよせて来るその風にも胸をむけて、全成は長い間そこに立ちつくした。

〔炎環〕永井路子

全成 今若

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (2) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (3) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (4) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと)。
- (5) 課題1 六〇〇円
- (6) 課題2 三〇〇円

課題1 石原春香先生 〒三七〇一〇八七

高崎市楽間町二四ノ二一

課題2 松浦江波先生 〒五二一〇一四三

相模原市緑区橋本六ノ四二ノ一九

課題2 (初段階以下)

おりようは竜馬の顔をのぞきこんだ。その寝顔は変にあどげなく、夢も見えないそうにない気配である。

〔竜馬がゆく〕司馬遼太郎